

原子力事業の新たな展開

Continuously Growing Nuclear Business

東芝グループの原子力事業展開

Expansion of Nuclear Businesses of Toshiba Group

エネルギー安定供給と地球温暖化防止の観点から、発電中に二酸化炭素(CO₂)を排出せずに大きなエネルギーを生み出す原子力発電への期待が高まっており、世界各国で原子力発電プラントの新規建設計画が発表されています。

東芝は、グループ傘下のウェスチングハウス社とともに、両社が約半世紀にわたって培ってきた高い技術力を生かし、原子力発電プラントの建設及び保守をはじめ、原子燃料サイクル、先進技術応用など幅広く事業を展開しています。

プラント建設では、世界で唯一運転実績のある第3世代炉の改良型沸騰水型原子炉(ABWR)と、安全性と経済性を追求した最新型加圧水型原子炉AP1000TMの二つの炉型を顧客のニーズに合わせて提案し、2015年までに39基の受注を見込んでいます。

また、沸騰水型原子炉に強い東芝と加圧水型原子炉で世界をリードしてきたウェスチングハウス社の技術力を活用して、既存の原子力発電プラントの稼働率向上や寿命延長を実現する様々な保守サービスを提供しています。

将来にわたって原子力発電プラントを安定に運転していくためには、原子燃料サイクルの確立が必要です。東芝グループは、フロントエンドと呼ばれるウラン資源確保や原子燃料製造に関する事業及び、バックエンドと呼ばれる使用済燃料の再処理や貯蔵技術の開発、ウラン資源の有効活用にかかせない高速炉の技術開発に取り組んでいます。

原子力発電プラントに加え、幅広い原子力応用技術で社会に貢献するために、究極のクリーンエネルギーである核融合や、加速器を応用した次世代の重粒子線照射システムなどの先進的開発にも取り組んでいます。

東芝グループは、原子力のリーディングカンパニーとして、フロントエンドからバックエンドに至るまで幅広い事業領域に一貫したソリューションを提供していくとともに、更なる先進的原子力応用技術を開発していきます。



岡村 潔
OKAMURA Kiyoshi